

## 面接試験準備法

### 1. 面接とは何だ？

面接試験は何のために行うのか？

- ・ 対人能力、コミュニケーションスキル、即応性の確認
- ・ 個性、人格の確認、採用側の文化との相性
- ・ カウンセリングのための面接、受験者に気付いてもらう面接

面接は知識確認の口頭試問ではなく、プロセスが重要で、単純な正解はない。丸暗記は×

### 2. 面接官は何を求めているのか

被面接者の本当の力を知る。潜在能力まで引き出せれば大きな喜び。一方ミスマッチは早期に検出したい。質問の本質に答えた、力のある対応を期待している。

### 3. 面接の失敗は何か

これも相対的なもので、面接官の求めているもので異なるが、以下の例は一般的に悪い。

- ・ 面接官の質問に答えない。ちぐはぐな答え。黙りこくってしまう。面接官の反応を無視してしゃべり続ける。等等で対話にならない
- ・ 誰かに教えられた事前解答の丸暗記で、棒読み的な無表情な反応。
- ・ 感情的な反発。特に発言中の割り込みに対する反発。
- ・ 失敗を引きずる。失言や言い間違いは、直せばすむことを、そこで止まってしまう。

### 4. 面接の練習方法

#### 4.1 マナー訓練

部屋の入室→礼→着席→挨拶… 最後の挨拶→立った後の椅子の始末→退室

この一連の動作全てを落ち着いて、正しい姿勢で行えるように訓練する。発声時の腹式呼吸や、着席時は背筋を伸ばしてきちんと座る訓練は、繰返しの動作から身についてくる。最初の挨拶、敬語の使い方に関しても反復練習を行う効果は大きい。

#### 4.2 模擬面接

一通りの質問に慣れさせておく。特になれた言葉は聞き取れるが、初めての言葉は聞き取れないので、弊社・貴校・貴学などの硬い表現にも、慣れさせることは重要である。

なお、答え方に不適切なものがあれば、本人が納得するように説明する。本人が納得していないことを、丸暗記している場合は、面接官に直ぐに判る。記憶させる場合は、本人が納得し、感情を込めて話せるようにしておく。自分の体験談を加えさせると良い。体験談を話させて、それに適切な評価を行い、良いものに関しては、理論面で裏付けしてやれば自信がついて、力のこもった話になる。

#### 4.3 ロールプレイ

可能なら、面接官役と被面接官役を交互に演じる、ロールプレイを実施する。特に、面接官役を自分で経験することで、「このような答え方では分からない、こうすれば好感を与える」と実感できる。

#### 4.4 トラブルへの対応

本来の圧迫面接でなくても、単に詳しく聞かれただけで、圧迫と考えることも多い。まずは、単なる確認などを圧迫と思わないことが大切である。しかしストレス耐性や、忍耐力を確認する本来の圧迫面接には、落ち着いて対応することを心がけるように教える必要がある。

言い間違いや、面接官側の聞き違いに対して、適切に対応するように、この様な事態の訓練は有効である。訓練での失敗経験は、成果に結びつくことが多い。

### 5. その他

マナーは、面接を始まる前から、見られている。受付担当者と言えども、人事関係者であり、しっかり見られている。このような緊張に、耐える訓練を行うことは効果がある。面接で話すことは、エントリーシートや履歴書、小論文とも関連している。逆に、小論文の訓練は面接の話題を豊かにする訓練でもある。総合的に見て、準備する必要がある。

以上